

【熊本県大津町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

大津町の最上位計画である「第6次大津町振興総合計画後期基本計画」の具現化に向けて、本町の教育分野の指針である「大津町学校教育ビジョン」に定める基本目標や政策等を踏まえて策定した「第2次大津町学校情報化推進計画（令和5年度～令和8年度）」を指針として下記に取り組んでいます。

方策1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

方策2 教職員のICT活用指導力の向上

方策3 ICT環境整備、ICT推進体制整備及び校務の改善

また、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク環境を実現することにより、ICTを様々な学習場面で効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。

2. GIGA第1期の総括

本町では、令和2年度に整備が完了した1人1台タブレット端末の本格運用が令和3年度から始まりました。この間、大津町教育委員会としては、快適なインターネット環境整備が必須ととらえ、校内LAN環境等の整備を行いました。加えて、教職員向けに実施した端末に関する説明会や授業支援ソフトを活用した実践事例の紹介など本格運用前に計画的に行ったことで、のちにコロナ禍での学級閉鎖や学年閉鎖などの緊急時においても、オンラインによる双方向型の学習が行え、従来の学習支援だけに捉われない「主体的・対話的で深い学びの実現」に向け、学びを止めることなく取り組むことができています。

一方、大規模校においてインターネット回線が重くなり授業に支障をきたす可能性がでてきたため、回線を増設するといった対応を行いました。今後も児童生徒数の変動を注視し、個別最適な学びと協働的な学びを阻害することがないよう対策を講じていく必要があります。

また、学校間や教員間におけるICT活用状況に差が生じていることや効果的な活用になっているかが課題となっています。

3. 1人1台端末の利活用方策

大津町では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。

(1) 1人1台端末の積極的活用に向けて

令和5年度全国学力・学習状況調査（学校質問紙）の調査結果では、授業において1人1台端末を使用している割合として、小学校では、「ほぼ毎日」と答えた学校が57.1%、中学校が100%であり、使用頻度は高い状況にあります。引き続き積極的な活用を推進していくた

め、快適なネットワーク環境の整備は必須と考えます。令和7年度に端末の更新とネットワークアセスメントの実施を計画しており、その結果から必要なネットワーク環境の整備を計画し、1人1台端末の活用を継続して推進していきます。

（2）個別最適・協働的な学びの充実に向けて

これまでも行ってきた学習支援ソフトを活用した授業やデジタルドリルの活用により、学習履歴や教育データを活用した個別最適な学びを充実させていきます。また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図るため、情報教育担当者会で活用事例を共有し、各学校で情報共有することで、教職員のICT活用指導力の向上を図ります。

（3）学びの保障に向けて

日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、翻訳アプリの活用やフリック入力を活用する等の児童生徒の実態に応じた端末活用をすることで学びの場を提供し、学習機会を確保していきます。